

「クラブ員一人ひとりが自覚を持って意欲的に農業クラブ活動に取り組むためにどのようにしていくべきか。」

クラブ員代表者会議 九州ブロック 熊本県立熊本農業高等学校
園芸・果樹科 3年 木村 葵
農業科 2年 中嶋 飛鳥
畜産科 2年 松永 美紗

1 はじめに

九州ブロックは、福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県の8つの県連、単位クラブ64校1分校で構成されています。九州観光の醍醐味の一つ、温泉巡りが象徴するように九州地方のあちこちには、阿蘇山、雲仙岳、桜島など名だたる火山が点在しています。九州の南部の鹿児島県、宮崎県、熊本県には、火山の噴出物が堆積した「シラス台地」が広がっており、その水はけの良い土壌を利用した畑作や畜産が盛んです。農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、部門別農業産出額の全国に占める割合は、畜産や工芸農作物では約3割を占め、野菜、果物など様々な品目が全国順位で上位となっています。市場へ出荷された九州産の青果物の多くが、九州以外の地域へ出荷されています。

九州学校農業クラブ連盟では、学校農業クラブ(以下、農業クラブ)三大目標である科学性・社会性・指導性の力を高めたり、日本の農業の課題解決に向けた各種活動を行ったりしています。7月21・22日には3年ぶりの対面でのリーダー研修会を行いました。また、8月8・9・10日に九州学校農業クラブ連盟発表大会熊本大会が3年ぶりに対面で開催できました。新型コロナウイルス感染防止の観点からクラブ員同士の交流が制限されましたが県を越えた活動を復活できました。各県単位クラブごとに特色ある様々な取り組みがなされていましたが、課題点も多く見つかりました。



阿蘇山



九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会



九連旗引き継ぎ

2 農業クラブ活動と課題

新型コロナウイルスの影響により行事の規模縮小や中止となり活動できないことが多く、農業高校の取り組みや学校農業クラブという組織について理解していないクラブ員も多い、限られたクラブ員しか積極的に活動できていない。また、勉強や部活動、当番などやるべきことが多く、両立できていないという現状がありました。また、自分から積極的に活動できていないためやらされている活動もあります。これらのことは農業クラブ三大目標である「科学性・社会性・指導性」の力を身につける機会が少なくなってしまうということです。リーダー研修会にて実態や問題点・問題解決に向けた取り組みについて話し合った結果、「農業高校や農業クラブについてPR方法を見直し、新たな行事の見通しや活動を計画することが重要である」と考えました。



九州リーダー研修会の様子

3 活動内容

(1) 農業高校や農業クラブ活動を知ってもらうためには？

現在、本校では農業高校や農業クラブ活動に興味を持ってもらうため、学校の農業クラブ役員で1年間の活動についての動画を作成し、中学生や新入生に観てもらっています。また、宮崎県では地元の駅に花壇を作り、フォトスポットとして地域の方にも農業高校に興味をわくよう工夫した活動をされています。



更にわかりやすく知ってもらうためには、新聞・ポスターを作成し校内に貼り出したりSNSを利用し校内・校外へと農クの情報発信したりすることが重要だと考えました。それにより、「農業高校は楽しい、季節によって行事があるからおもしろい」ということを伝え、やってみたいと思えるような情報発信が必要だと思いました。今後期待できることとしては、場所や時間を選ばず、非接触で多くの方々に農業高校の魅力や行事について知ってもらうことができるということです。



写真や動画を使用することで学校の雰囲気や授業内容などわかりやすく伝えることができます。また、各学科の特色を再発見することができるため、私たちも実習に真剣に取り組むきっかけにもなると考えています。

(2) 意欲を向上させるための取り組み

現在、農業クラブ活動へ意欲的に活動してもらうため、農産物販売会を定期的に行っています。しかし、特定のクラブ員しか積極的に活動していないため、全体の意欲の向上に繋がらなかったと考えます。農産物販売会を定期的に行うだけでなく、クラブ員全員が参加できる行事や活動を増やす必要があると考えました。例えば、収穫感謝祭でクラス・学科で協力してのカレー作りや、沖縄県で草刈り大会、とクラブ員一丸となり、楽しく農業高校ならではの行事をしています。このようにクラブ員全員で活動することで「農業高校っておもしろい、やりがいがある」と興味関心を持ってもらえると考えます。また、Google meet 等オンラインで他校との交流もできると思います。特定のクラブ員だけでなく沢山のクラブ員も参加できるよう工夫しながら、他校と交流することで「負けてられない、もっと頑張ろう」など様々な考え方を見聞したり発表したりできると思います。

本校では、学科を超えて情報が共有をするために、プロジェクト活動の記録簿や意見発表など発表原稿の展示会を行いました。また、農業の知識を向上させるため農業鑑定の勉強会を行いました。しかし、これらの活動に参加するクラブ員が少なく、活動を行う前と大きな変化はありませんでした。今後は、意見発表・プロジェクト発表・農業鑑定競技の上位者にはその学校の商品であるクッキーや野菜、果物など景品として渡すことで活動してくれる人が増えるのではないかと考えています。そのため、農ク役員が景品の内容も含め、各クラスに説明を行ったり宣伝したりする工夫が必要だと思っています。



4 まとめ

一人ひとりが意欲的に取り組むのは難しい課題であると感じます。しかし、難しいことだからといって諦めるのではなく、何度も話し合いを重ね課題と向き合い単位クラブで実行していくことが大切だと思います。九州学校農業クラブ連盟では、農業高校や学校農業クラブについてPR方法を見直し、新たに行事や活動を計画することが重要であると考えました。私たちが在籍する熊本農業高校ではクラブ員数が日本で一、二の規模ではありますが、それが裏目にでてしまい「自分たちがしなくても他の人がやってくれる」と考える人が出てきています。そのため、コロナ禍でも行事や活動は継続していき、新たに行事や活動を増やしていくことでクラブ員が「農業高校はやりがいのある、楽しい学校だ」と再認識することができると思います。ちょっとしたことで学校農業クラブ活動に興味や関心を持ち始める人も少なくないと思います。私たち学校の農業クラブ役員の一方的な活動ではなく、全員が取り組める活動を展開していくこと、クラブ員、学校、地域が一体となり活動していくことが学校農業クラブ活動への意識の向上・活性化に繋がると考えています。